

被災地に伝わる伝統文化 ～三六災害の記憶～

取組に至る背景・事業の目的

- 昭和36年6月、死者99人、行方不明者31人、甚大な家屋被害を出した通称「三六災害」から50年が経過する。そこで、忘れかけた記憶を思い起こし、災害の実態を再認識するとともに、教訓として後世に伝えていくため、地域に伝わる「中尾歌舞伎」を媒体として未曾有の大災害を演目に起こし末永く継承していく。また新しい演目の上演ということで、必要となる背景幕、衣装の製作には地域の手を借り、歴史を語り継ぐ機会として子どもからお年寄りまで本事業に携わり、一つの物を作り上げる場の提供を目的とする。

事業内容

- 伊那谷を襲った被災から50年が経過するのを期に、災害の実態を再認識し後世に伝えるため、中尾歌舞伎の演目としてオリジナル公演を実施した。
- 新しい演目の上演に際し、製作する背景幕、衣装の繕い等には会員の他にボランティアによる一般参加者を募り、様々な人による手作りの演目を作り上げた。



【手作りの舞台で熱演】

事業効果

- 背景幕や舞台装置等を地域住民との協働により作り上げていくことで、年代を超えた交流に繋がり、歴史を後世に語り継ぐ場の提供へと発展した。
- 関係者を招待するプレ公演を行うことで、今後の集客にも繋がることのできた。



【楽屋風景】

工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

- プレ公演という形で御披露目を行い、本公演を中尾歌舞伎春の定期公演で上演し、多くの観客に今回の事業成果を披露することができた。
- 今後永くこの演目を演じることにより、未曾有の大災害を風化させること無く語り継ぐことに直結させていく。
- 数多く演じることによりこの演目が成熟し、本会の代表作になるように取り組んでいく。

【選定のポイント】

三六災害50年を契機として、災害の様子をオリジナル演目による歌舞伎公演として後世に伝える事業はモデル性が高く、多くのマスメディアに取り上げられるなど大きな波及効果も認められる。

団体名 中尾歌舞伎保存会 (伊那市)	事業タイプ ソフト・ハード事業
連絡先 伊那市教育委員会	事業費 639,282円
電話 0265-78-4111	支援金額 535,000円
ホームページ	
http://www.dia.janis.or.jp/~kabuki/	